

「バナナ」考

大野 和敏
香港中文大学
ohno@cuhk.edu.hk

香港日本語教育研究会 月例会発表
2010年5月8日

A. 本日の講義内容

- (1) 主眼
- a. 日本語のアクセントと広東語の声調、そして英語のストレス
 - b. 日本語らしいアクセント（ピッチ曲線）の描き方
- (2) 分析：「バナナ」の発音例から出発
- a. 音価の問題
 - b. アクセントの問題
 - c. それ以外の問題
- (3) 結論（表のメッセージ）
- a. すべてがアクセントの問題から始まっている
 - b. まずは日本語母語話者の発音に注意してみよう
- (4) 裏のメッセージ
- a. 「バナナ」という一語の発音を考えるだけでも、様々なことが議論できる
 - b. 様々な議論の結果、一つの結果に落ち着くこともある

= 第一部 =

B. 広東語母語話者の発音：「バナナ」

よく言われていること

- (5) 清濁：「バナナ」
- a. 清濁の区別が難しい
 - b. 中国語母語話者、韓国語母語話者に共通する
- (6) ナとラ：「バナナ」
- a. ナ行音とラ行音の区別が難しい
 - b. 中国南方地域に共通する

- (7) アクセント：「バナナ」（一は弱い部分を表す）
- a. 英語の強勢（ストレス stress）に影響される
 - b. 英語母語話者および英語学習者に共通する

- (8) 複合型
→ 上の複数が重なり合ってもおかしくない

実際はどうか

- (9) ナとラの混同
- a. 理論的には「バナラ」「バナナ」もありうる → 聞くことはまれ
 - b. では、よく言われる「バナラ」（例えば、野浪 1980: 21）は？

- (10) 清濁の混同
- a. 実はよほど思っても出さない限り（＝有気音でないなら）、問題はない？
 - b. 日本語母語話者の発音もそう明確でない

- (11) アクセントの混同
- a. 中高型が好まれるようだが、指摘するだけでいいは直せる
 - b. ただしその定着には個人差が出る

- (12) 「バナナ」の実際
- 上で心配されるような問題は、本当に多いのであるうか（素朴な疑問）
- しかも、これらの問題は「広東語母語話者」に特有というわけでもない

- (13) では何が問題か → 長音化
- a. 全体に長い「バーナー」 → 比較的修正は簡単
 - b. 語頭の長い「バーナナ」 → これがなかなか直らない（短くできない）

音声指導という立場から

- (14) 課題
- 「バーナナ」の「バー」を短くするにはどうすればいいのか

- (15) 問題
- a. 「バ」が長すぎることをなかなかわかってもらえない
 - b. 「バ」が長すぎるのがわかっていても直せない

- (16) 目標
- 「バ」の長短に無知覚でも、短く発音できる方法を見つけ出す

C. 日本語母語話者の発音：「バナナ」

- (17) 復習：日本語の「バナナ」
- a. 三拍語である → どのようなリズム（長さ）で発音されるのか
 - b. 頭高型である → どのようなピッチ（高低）で発音されるのか

(18) リズム (長さ)
→ はつきりしない (一定していない)

(19) ピッチ (高低)
a. 上昇調で始まる → ビークは最初の「r」部分 (が多数派)
b. 高低低 (バナナ) というイメージにあわない → が、それが現実

(20) 高低知覚
a. 語頭 → 上昇調でも上昇調に聞こえない
b. バからナへの推移 → そんなに下がってないので下降調に聞こえる
→ 現実の高低推移がどうであれ、頭高型に聞こえるのは確か (不思議)

(21) 指導法 (提案) : 「バナナ」
a. 「バ」を上昇調で発音する
b. しかし、その上昇調がばねないうちに「ナ」に移行
c. その「ナ」はしっかりと下降調で

(22) 一般化 (応用が利く)
a. 頭高型は上昇調で入る (始める)
b. その上昇調がばねないようにすぐに次の音をしっかりと下降調で読む

＝ 練習問題 ＝

以下の単語 (すべて頭高型) を発音してみなさい

「音楽」 「デスト」 「バス」 「朝日」 「コート」 「来月」 「アクセサリー」 「ミルク」 「猿」

(23) 現場からの報告
→ かなり効果がある

＝ 第二部 ＝

D. 広東語母語話者の「バナナ」

初級段階

(24) 発音
a. アクセントは比較的よくできる → 定着はなかなか難しい
b. バ (濁音) やナ (ラとの混同) も比較的安心
c. しかし、全体的に伸びてしまいやすい → 「バーナーナー」

(25) なぜアクセントは比較的よくできるのか (24a)
a. 中国語母語話者は音の高低に (ピッチ推移) に敏感
b. 「バナナ」は頭高型以外ではかなりおかしく聞こえる

(26) なぜアクセントは定着しにくいのか (24a)
a. アクセントの重要性が十分に教えられていない
b. 記憶があいまい → 書き言葉に反映されない
c. 中高型への誘惑 → 広東語式? 変換規則
活用型 材料

(27) なぜ「バ」(濁音)は比較的よくできるのか (24b)
a. 日本語母語話者の発音 (清濁の別) も実はかなりいいかげん
b. 英語でさんさん練習してきたから?

(28) なぜ「ナ」は比較的よくできるのか (24b)
a. ラ行/ナ行の混同は、圧倒的に「ラ行→ナ行」の過剰使用 (坂口 2009)
b. これも英語でさんさん練習してきたから?

(29) なぜ全体的に伸びやすいのか (24c)
a. 初級段階ではノンボトく話すのは難しい
b. 広東語の開音節単純母音 (monophthong) には短母音 (short vowel) がない
→ 例えば、李行徳 (1985) 中の議論

初～中級段階

(30) 発音
a. 「バーナナ」になってしまふ = 「ナ」は短くできるが、「バ」はできない
b. しかもなかなか矯正できない

(31) 「バーナナ」
a. 日本語母語話者にはかなりおかしく聞こえてしまふ
b. 日本語母語話者は長短をしっかりと区別する

(32) もう一つの特徴
「バーナナ」の「バー」→ 平板 (高く平ら) である

(33) 疑問
a. どうして「バナナ」の「バ」が「バー」になってしまうのか
b. どうしてその「バーナナ」の「バー」は平板なのか
c. どうしてその「バーナナ」の「バー」を短くできないのか

(34) 「バ」が伸びてしまう理由 (可能性)
a. 「バ」という発音は一般的に伸びやすい → ありえない
b. 語頭は伸びやすい → 考えられない
c. アクセントの置かれる拍は伸びやすい → これか?

(35) 英語の強勢 (ストレス)
a. 広東語母語話者の英語
→ 強勢のある音節を高平調で長めに読む (Chan Ming Kei の HKU MPhil 論文)
b. 広東語に入った英語 (外来語 loan words)
→ 強勢のある音節を高平調で長めに読む (Yip 2002)

(36) つまみり
a. 英語の習得・広東語化に用いるストラテジー : 英語の強勢を広東語の声調に変換
b. そのストラテジーを日本語のアクセントに援用 (転移 transfer)

(37) しかし

- a. 英語の場合にはある程度妥当
- b. 日本語の場合には妥当性が低い

(38) 英語の強勢

- a. 「高さ」「長さ」「大きさ」(とその複合)で実現
- b. 強勢言語 (stress languages) に共通 → ロシア語、フランス語、...

(39) 日本語のアクセント

- a. 日本語のアクセントは次の音(拍)の急激な下降で表現(杉藤 1982:72)
- b. アクセント核の高さ、長さ、大きさに変化はない → 変化させてはいけない

(40) D章の結論

- a. 「バーナナ」の段階から抜け出せない人は、誤ったストラテジーを採用している
- b. 「バ」を短くする方法を考え出すことが次の課題

E. さらなる考察

母語話者との比較から

(41) 日本語母語話者の「バーナナ」

- a. ビッチ(高低推移) → 上昇調で始まる
 ~ 「おそ下がり」として有名(杉藤美代子)
- b. 佐久間肇、川上繁など、かなり以前から繰り返し指摘されていた現象

(42) なぜ上昇調で始めるのか

- a. いきなりそんなに高いところから始められない ~ 始めてはいけない
 → 驚きや強調を表してしまう ~ イントネーションの問題
- b. つまり、音段(アクセントによるビッチ変動幅)はそんなに広くない【重要】
- c. 第2拍目(ナ)が急激に下降することによって、頭高型と認識されるのでOK

(43) ここで気づくこと

- a. 「バーナナ」の「ナー」は長いだけでなく、高い(高すぎ)
- b. 中国語母語話者の発話の高低幅は日本語母語話者の約1.4倍とも(朱春麗 2001)
 → 日本語は低いところをよく使うので、高の範囲が問題か

(44) 音声指導：頭高型の始めを“ばれない”上昇調に

- a. きれいな頭高型の初め ~ 全体のビッチ推移になる
- b. 発話全体の高低幅(特に高)が抑えられるかもしれない
 → 日本語らしい日本語にまた一歩近づく

(45) (44)の指導法

- a. 長短の問題でなく、(中国語母語話者の得意な)音の高低推移に置き換える
- b. 高すぎる「入り」のビッチも低目に抑えられる
 → 以上の両方がそろうことでようやく効果が始まる

失敗例

(46) 「バンナ(ン)ナ」

- a. とにかく「バ」を短くというプレッシャー(参考(31b))
- b. 広東語の「ba」は長母音だが、「ban」は短母音である(浜 ⇄ 班)

(47) 閉音節の活用

- a. ストラテジーとしては秀逸 → 英語ならごまかせるかも
- b. 日本語の場合、持続時間に注意しないと難しい

(48) 失敗例から

- a. 「ba」から「ban」に変わっても、やはり高平調
- b. 「短く」も重要だが、高平調でないことも重要なのでは

(49) 疑問

- a. 学習者に「バ」を“高く平らに”読むプレッシャーがかかりすぎでは
- b. 本当に(香港の)英語習得からの影響だけだろうか

新たな提案へ

(50) 高低表記の罪

- a. 香港の学習者は「高」を“高く平らに”読むべきだと受け取ってはいないか
 ↓ 大野・鈴木(2009)
- b. 必ずしもそうではない

(51) 「へ」の字の推奨 … 中川(2001)ほか

- a. 日本のアクセントの基本的なビッチ(高低)推移
- b. 例え頭高型であっても

(52) 副産物

- a. 頭高型フレーズのイントネーションにも言及できる → 「そうですか」
- b. 中高型の矯正にも使える → (266)(38)

(53) 香港式中高型

- a. 英語の強勢 (penult stress) の影響? 中国語一般(蔡全勝 1983)?
- b. いずれにせよ、三拍語なら「中高型」が選ばれる
- c. しかし日本語の中高型アクセントとはかなり異質
 → 「お肉」、近畿アクセントの「バンナナ」

F. 終わりに

(34) まとめ

- a. 日本語の「バンナナ」
 香港の日本語学習者 → 高く平らに始めがち
 日本語母語話者 → 上昇調で始める(程度は様々)
- b. 「バンナナ」が「バーナナ」になっってしまうのはアクセントの作り方に原因か
- c. 高低表記でなく「へ」の字のイメーজでとらえ直せるかどうか

- (35) 取り残された疑問 (2点のみ)
- a. なぜなぜ上昇調は短めに聞かれるのか
 - b. 機械的な切り取り、ピッチ操作がうまくいかないときがある
- (36) 最後に重要な警告
- 今日の発表は十二く要訳な注文である



参考文献

- 大野和敬・鈴木典子 (2009) 「中国における音声指導：韻律指導の要点」『多元化視角下的日語教学与研究』張佩霞・王詩榮/主編 华东理工大学出版社、53-59頁
- 藤金勝 (1983) 「中国人に見られる日本語アクセントの傾向」『在中華人民共和国日本語研修センター紀要 日本語教育研究論集 第一集』東京：国際交流基金、26-31頁
- 坂口香織 (2009) 「香港在住日本語学習者の音韻知覚・認識と発音の問題」『アジア・オセアニア地域における多文化共生社会と日本語教育・日本研究 第一部 基調講演・日本語教育』小川正志、陳道順、アトトリ・ムー・マクノートン、村上史展、吉川貴子、萬美保(編) 香港：香港大學現代語及文化學部 (香港大學外國語・文化學院) 日本研究學科、香港日本語教育研究会、123-130頁
- 朱春暉 (2001) 「中国語話者の日本語音声およびその指導」『言葉の科学 10』言語学研究会編、むぎ書房、13-42頁
- 杉藤美代子 (1982) 『日本語アクセントの研究』三省堂
- 中川千恵子 (2001) 「『へ』の字型イントネーションに注目したプロソディー指導の試み」『日本語教育』110号、140-149頁
- 野沢菜子 (1980) 「広東語母語話者の日本語学習における音声の問題点について — 子音を中心として —」『日本語教育』41号、13-24頁
- 李行徳 (1983) “「州話元音的値及長短対立”、《方言》1985年第1期、28-38頁
- Yip, Moira (2002) Perceptual Influences in Cantonese Loanword Phonology. 『音声研究』第6巻1号、4-21頁

大野和敬 (おおの・かずとし)